

人のために働くプロ

第一鹿屋中学校 二年 内村 心美

「今日確認された感染者数は昨日と大幅に上
回り、

淡々と原稿を詠せ上げるアナウンサーの声
をぼんやりと聞く。そして半分眠ったように
怒ったような顔でそのアナウンサーを見つめ
た。夏休かも中旬に入り、夏らしさを感じる
青空が窓の向こうに広がっている。

「ここまでは去年と同じなのになあ」

そう呟く私の声は現在、日常をねじ曲げてい
る新型コロナウイルスへの恨めが交わって
た。不満いっぱいの顔で見回した部屋にはた
たんでいない洋服。元気よく差し込む夕日。
それに交じって青いチウシ。

「福祉・ボランティア作文」

福祉と聞いてすぐ母の顔が浮かんだ。思わす
顔をしかめる。介護福祉士として働く母は、
体の不自由な利用者さん達にうつしてしまわ
ないよう徹底して感染予防をしている。私達

家族にもマスク着用・手洗いの人がい、人混みを去けることなど口酸っぱく言っていた。せいかくの夏休みがその一言で毎回崩れていく気がする。私だって充分我慢している。もっと夏休みらしいことがしたい。お盆も祖父母交いえて集まりたかったし、遠い所遊びに行きたかった。でも母の言う事は正しくて文句は言えなかった。精一杯の反抗として少しひねくれた態度をとるくらいだ。私のもう一度チラシを見つけた。

「書いてみようかな、。、。レ」
新型コロナウイルスについてこの作文を通して考え直してみようと思った。手紙という形で。

福祉の現場で働く皆様へ
体の不自由な方やご年配の方に最前線でお応えする姿を沢山のメディアで、そして母の様子を通して見えました。母の、利用者さんにくうつさないという徹底ぶりを身近で感じてきて、中学生の私に協力する気持ちには正直あり

ませんでした。他の家の子はもっと自由なの
 に……。心なしか福祉の世界が特別に思えま
 した。でも本当は、特に我慢しているのは、
 人間を相手にしている福祉の現場で働く皆さ
 んです。一人の為に働くプロフェッショナルな人が福
 祉の世界には沢山いるのだと今は感じています。
 す。まずはそれに感謝したいと思います。そ
 して感謝だけでは足りません。思返しをした
 と思います。人の為に働くプロの皆さんに
 私ができる思返しは小さな事ですが、精一杯

の感染予防とその輪の拡大です。これ以上我
 慢を増やさないと。最前線でも働く皆さん
 が日常を取り戻せますように。
 ここからは、私の願う世界を未来からの手
 紙として写した。そうと思う。
 2020年の私達へ
 2025年。新型コロナウィルスはもう私達
 の日常を棄さなくなりました。今考えてみる
 と、リモートとは寂しいものです。いくら顔
 が見えても、同じ場所で同じ空間で同じ景色

で笑顔も共有するから思い出になるのだと思います。飲み会もカラオケも大人数でしています。2020年の私達が頑張ったからこそです。そしてあの頃まるでヒーローのよう活躍していた福祉の現場で人の為に働くフロの皆さんのおかげです。思い返し、輪、広がって良かったですね。必ず、同じ場所で同じ空間で同じ景色で笑顔も共有し、思い出をつくれる日が来ます。今しばらく我慢を重ねて下さい。明るく未来を想像して。2025年

の世界は本当に楽しいです。皆に感謝しています。ありがとうございます。
「感染者が三日連続で、こちらの数字を減らすのは少し笑顔です。アウニサーを見つけた。もうすぐ母が帰ってくる時間だ。母や祖母のおさがりの浴衣でお祭りは無くなりました。けれど写真を撮りたい。それから花火も、素麵も。人の為に働くフロフェニッシュの母と一緒に。同じ空間で同じ景色を見て同じことで笑いたい。